令和６年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ

(様式１－１)**令和６年度　中堅教諭等評価票（自己評価用）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | 職名 |  | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 学年団・  担任等 |  | 担当教科・校務分掌等 | | |  |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅教諭等として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅教諭等として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評　価 |
| A　素養・資質 | 使命感 ・ 責任感 | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持について、校内での意識  が高まる雰囲気をつくることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の教育に携わるとともに、後輩教員への支援をすることができる。 |
| コミュニケーション | 教育者として自覚をもった発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えをその背景を含めて理解し、状況に応じて、適切な助言やかかわ  りができる。  ・教育者としての自覚ある言動を通して、子どもや保護者、同僚及び地域の人々との  信頼関係を築くよう努めることができる。 |
| 自己研鑽 | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自らの専  門性を高めるとともに、学校課題を自らの課題として捉え、改善を図ることができ  る。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を示し、積極的に教育情報を収集し  たり、課題解決のための具体的な提案をしたりしながら、共に高め合う教員集団づ  くりに貢献することができる。 |
| B　知識・技能 | 子ども理解 | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づくりに  積極的にかかわり、一人一人の児童生徒に心地よい居場所をつくることができる。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に応じた  適切な指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 |
| 学習指導 | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 |  |
| (例)・学習指導要領の教科、領域等の趣旨やねらいを理解し、「主体的・対話的で深い学  び」の実現を図ることで、児童生徒の資質・能力の向上に努めるとともに、他の教  員の範となるような学習指導ができる。  ・周囲からの意見、自己の授業の振り返りや適切な学習評価等を基に、積極的に授業  改善や児童生徒の学習意欲向上に取り組み、より一層専門的な知識や技能を身に付  けることができる。 |
| 生徒指導 | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 |  |
| (例)・他の教員と組織的に対応しながら、学級や学年のみならず学校全体の児童生徒の実  態を把握し、よりよい集団づくりに取り組むことができる。  ・児童生徒の自己存在感を高めるとともに、児童生徒の将来を見据え、問題解決能力  を高めるための支援をすることができる。 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | | | 評　価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自校の特徴と課題を踏まえ、積極的に特色あ  る学校づくりに参画することができる。  ・学年団や分掌等の要となり、学校の課題解決に向けて、リーダーシップを発揮する  ことができる。 | | |
| 参画 ・ 運営 | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | |  |
| (例)・保護者や地域、外部の専門機関等との連携の強化に努め、組織の一員として、その  関係を円滑にするために働きかけることができる。  ・協働的な教員集団づくりに中心となってかかわるとともに、後輩教員に的確な助言  や支援をすることができる。 | | |
| 危機管理 | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | |  |
| (例)・危機管理意識を持ち、安全管理に対して適切な対応をするとともに、学校全体のリ  スクやトラブルに対する対応策や未然防止策を提案することができる。  ・的確な判断の下、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全に留意した校内  外の環境を整えることができる。 | | |
| 特別な配慮や支援を  必要とする  子どもへの対応 | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子どもの  特性、気持ち及び困難の背景等を理解するとともに、教育支援に関する情報を確実  に引き継ぎ、切れ目のない支援を推進することができる。  ・関係教職員、保護者や関係機関等と連携の強化に努め、個々の課題を解決するため  に指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 | | |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | |  |
| (例)・ICTを効果的に活用した授業を展開したり、児童生徒の学習や生活に関わる個人情  報等の教育データを適切に活用したりするとともに、他の教員のICT活用指導力の向上のための助言や支援をすることができる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うとともに、校内の情報化においてリーダーシップを発揮することができる。 | | |
| 研修に向けての課題等 |  | | | | |
|  | | | 評価年月日 | 令和　　年　　月　　日 | |

令和６年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ

（様式１－２）　 **令和６年度　中堅教諭等評価票(案)（校長評価用）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　名 | 学校 | 職名 |  | フリガナ |  |
| 受講者名 |  |
| 学年団・  担任等 |  | 担当教科・校務分掌等 | | |  |

以下の基準により４段階で評価し、評価欄に記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 基　　　　準 | 評　価 |
| 中堅教諭等として求められる程度以上に優れている | ４ |
| 中堅教諭等として求められる一般的な程度を十分に満たしている | ３ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしている | ２ |
| 中堅教諭等として求められる最低限の程度を満たしていない | １ |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | 評　価 |
| A　素養・資質 | 使命感 ・ 責任感 | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 |  |
| (例)・教育公務員として率先して服務規律を遵守し、綱紀の保持について、校内での意識  が高まる雰囲気をつくることができる。  ・ミドルリーダーとしての自覚を持ち、使命感、責任感を持って、児童生徒の教育に携わるとともに、後輩教員への支援をすることができる。 |
| コミュニケーション | 教育者として自覚をもった発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 |  |
| (例)・相手の思いや考えをその背景を含めて理解し、状況に応じて、適切な助言やかかわ  りができる。  ・教育者としての自覚ある言動を通して、子どもや保護者、同僚及び地域の人々との  信頼関係を築くよう努めることができる。 |
| 自己研鑽 | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 |  |
| (例)・今日的な教育動向の把握に努め、研修会等で広く情報を収集するなどし、自らの専  門性を高めるとともに、学校課題を自らの課題として捉え、改善を図ることができ  る。  ・自己の教育実践の目標を定め、学び続ける姿勢を示し、積極的に教育情報を収集し  たり、課題解決のための具体的な提案をしたりしながら、共に高め合う教員集団づ  くりに貢献することができる。 |
| B　知識・技能 | 子ども理解 | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 |  |
| (例)・児童生徒相互の好ましい人間関係づくりや、教師と児童生徒との信頼関係づくりに  積極的にかかわり、一人一人の児童生徒に心地よい居場所をつくることができる。  ・児童生徒一人一人の特性や状況、生活環境等を多面的・多角的に捉え、個に応じた  適切な指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 |
| 学習指導 | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 |  |
| (例)・学習指導要領の教科、領域等の趣旨やねらいを理解し、「主体的・対話的で深い学  び」の実現を図ることで、児童生徒の資質・能力の向上に努めるとともに、他の教  員の範となるような学習指導ができる。  ・周囲からの意見、自己の授業の振り返りや適切な学習評価等を基に、積極的に授業  改善や児童生徒の学習意欲向上に取り組み、より一層専門的な知識や技能を身に付  けることができる。 |
| 生徒指導 | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 |  |
| (例)・他の教員と組織的に対応しながら、学級や学年のみならず学校全体の児童生徒の実  態を把握し、よりよい集団づくりに取り組むことができる。  ・児童生徒の自己存在感を高めるとともに、児童生徒の将来を見据え、問題解決能力  を高めるための支援をすることができる。 |

受講者名

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 観　点 | | | 育成指標と発展期に求められる具体的な姿 | | | | | | 評　価 |
| C　連携・協働 | 学校づくり | | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | |  |
| (例)・各校の学校教育目標の達成に向けて、自校の特徴と課題を踏まえ、積極的に特色あ  る学校づくりに参画することができる。  ・学年団や分掌等の要となり、学校の課題解決に向けて、リーダーシップを発揮する  ことができる。 | | | | | |
| 参画 ・ 運営 | | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | |  |
| (例)・保護者や地域、外部の専門機関等との連携の強化に努め、組織の一員として、その  関係を円滑にするために働きかけることができる。  ・協働的な教員集団づくりに中心となってかかわるとともに、後輩教員に的確な助言  や支援をすることができる。 | | | | | |
| 危機管理 | | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | |  |
| (例)・危機管理意識を持ち、安全管理に対して適切な対応をするとともに、学校全体のリ  スクやトラブルに対する対応策や未然防止策を提案することができる。  ・的確な判断の下、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全に留意した校内  外の環境を整えることができる。 | | | | | |
| 特別な配慮や支援を  必要とする  子どもへの対応 | | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | |  |
| (例)・障害のある児童生徒や不登校児童生徒等、特別な配慮や支援を必要とする子どもの  特性、気持ち及び困難の背景等を理解するとともに、教育支援に関する情報を確実  に引き継ぎ、切れ目のない支援を推進することができる。  ・関係教職員、保護者や関係機関等と連携の強化に努め、個々の課題を解決するため  に指導や支援の組織的な対応を提案することができる。 | | | | | |
| ICTや情報・教育  データの利活用 | | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | |  |
| (例)・ICTを効果的に活用した授業を展開したり、児童生徒の学習や生活に関わる個人情  報等の教育データを適切に活用したりするとともに、他の教員のICT活用指導力の  向上のための助言や支援をすることができる。  ・校務の情報化に対応して、効率的に業務を進め、情報を適切に扱うとともに、校内の情報化においてリーダーシップを発揮することができる。 | | | | | |
| 総　合　所　見 |  | | | | | | | | |
| 評価  年月日 | | 令和　　年　　月　　日 | | 評価者 | 職名 | 校長 | 氏名 |  | |

（様式２）　　**令和６年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ実施計画書(案)**

校名（　　　　　　　　　　　　　　　　学校） 　　　　　受講者名 ( 　 ）

　　校 長 名 （　　　 　　 　　　　　　）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個人研修課題 | |  | | | |
| 個人研修課題内容 | | Ａ 学級経営に関する内容  Ｃ 生徒指導に関する内容  Ｅ 特別活動、総合的な学習の時間に関する内容  Ｇ 学校づくり、学年団経営に関する内容 | | Ｂ 教科指導に関する内容  Ｄ 道徳教育に関する内容  Ｆ 特別支援教育に関する内容  Ｈ その他の内容 | |
| 月 | 県教育センター等における研修 | | 校内等における研修  □：研究授業、教材研究等(５日程度)  ■：課題研究(５日程度) | | 事前課題・提出物等 |
| ４ |  | |  | |  |
| ５ |  | |  | |  |
| ６ |  | |  | |  |
| ７ |  | |  | |  |
| ８ |  | |  | |  |
| ９ |  | |  | |  |
| 10 |  | |  | |  |
| 11 |  | |  | |  |
| 12 |  | |  | |  |
| １ |  | |  | |  |
| ２ |  | |  | |  |
| ３ |  | |  | |  |

第２回、第３回選択型研修受講予定　※二つ〇を付ける（申込みが必要な場合は、管理職を通じて行うこと）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 選択 | 内　容 | 選択 | 内　容 |
|  | ①教職大学院連携研修、又は専門研修の受講 |  | ③同校種の公開授業・研究授業に参加 |
|  | ②異校種の公開授業・研究授業に参加 |  | ④独立行政法人教職員支援機構(NITS)動画教材の受講 |

（様式２）記入例**令和６年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ実施計画書(案)**

実施計画書案が決定したら、案を取り、実施計画書として提出する。

校名（　　　○○〇立　　△△小学校） 　　　　受講者名 (　　　〇〇　〇〇 　 ）

評価票案等に基づき、中堅教諭等の意見や希望を参考にしながら決定する。

　　校 長 名 （　　　〇〇　〇〇 　　 　）

「Ⅲ　１ 県教育センター等における研修」を基に作成する。（７日）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 個人研修課題 | | ・思考力・判断力・表現力等を育成するための学習指導の工夫 | | | |
| 個人研修課題内容 | | Ａ 学級経営に関する内容  Ｃ 生徒指導に関する内容  Ｅ 特別活動、総合的な学習の時間に関する内容  Ｇ 学校づくり、学年団経営に関する内容 | | Ｂ 教科指導に関する内容  研修課題が複数の内容領域にまたがる場合があるが、主たる内容を一つ選択する。  Ｄ 道徳教育に関する内容  Ｆ 特別支援教育に関する内容  Ｈ その他の内容 | |
| 月 | 県教育センター等における研修 | | 校内等における研修  □：研究授業、教材研究等(５日程度)  ■：課題研究(５日程度) | | 事前課題・提出物等 |
| ４ | 〇オンライン研修「オリエンテーション」受講 | | 「Ⅲ ２ 校内等における研修」を基に作成する。（１０日程度）  **研究授業は２回実施する** | | ○自己評価票、実施計画書案作成・提出（校内） |
| ５ |  | | □校内研究授業に向けた学習指導案検討会 | | ○評価票、実施計画書案提出  （９日）  ○実施計画の決定  ○実施計画書提出（16日） |
| ６ | ○県教育センター主催研修  （11日） | | □研究授業及び授業討議(３年国語) | | ○「校内・校外における連携の図り方」資料準備  (７月29日集合研修に向けて) |
| ７ | ○選択型研修（教職大学院連携研修（24日））  ○県教育センター主催研修  （29日） | | ■家庭との連携、保護者対応について | | 〇第２回選択型研修レポート作成・提出 |
| ８ | ○県教育センター主催研修  （６日） | | ■プログラミング研修 | | ○「キャリア教育の取組例」資料準備(８月６日集合研修に向けて) |
| ９ | 〇選択型研修（オンライン研修） | | □要請訪問研究授業に向けた教材研究・学習指導案検討 | | 〇第３回選択型研修レポート作成・提出 |
| 10 |  | | □要請訪問研究授業及び授業討議(３年算数) | |  |
| 11 | ○オンライン研修「学校組織マネジメント」受講 | | ■人権・同和教育　隣保館訪問 | | ○オンライン研修「学校組織マネジメント」レポート作成 |
| 12 | ○県教育センター主催研修（25日）  〇選択型研修（香川の教育づくり発　　表会（26日）） | | ■スクールカウンセラー講話 | | ○「カリキュラム・マネジメント」資料準備  (12月25日集合研修に向けて) |
| １ |  | | ■教育相談についての事例検討会  □研究授業参観(５年社会) | | ○研修受講記録提出（校内） |
| ２ |  | | ■次年度の学習指導計画作成  （カリキュラム・マネジメントの視点をもって） | | ○実施報告書作成・提出（校内）  ○実施報告書提出(28日) |
| ３ |  | |  | |  |

第２回、第３回選択型研修受講予定　※二つ〇を付ける（申込みが必要な場合は、管理職を通じて行うこと）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 選択 | 内　容 | 選択 | 内　容 |
| 〇 | ①教職大学院連携研修、又は専門研修の受講 |  | ③同校種の公開授業・研究授業に参加 |
|  | ②異校種の公開授業・研究授業に参加 | 〇 | ④独立行政法人教職員支援機構(NITS)動画教材の受講 |

（様式３－１）

中堅教諭等資質向上研修Ⅱ(小・中)　　　　　　　　　　令和 年 月 日

**第　回　選択型研修　受講報告書**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 香川県教育センター所長　殿 | | | | 校名 | |  | | |
| 校長名 | |  | | |
| 受講者名 | |  | 受講者番号 |  |
| 第　回研修 | 日　時 | | 令和　　年　　月　　日（　）　　：　　～　　： | | | | | |
| 選択  番号 | 講座名等 |  | |  | | | |
| 研修の概要 | |  | | | | | |
| 受講後の感想等 | |  | | | | | |

送 付 先　　香川県教育センター

**〒７６１－８０３１　高松市郷東町５８７－１**

　　各研修終了後、２週間以内に逓送又は郵送してください。

（様式３－１）記入例

中堅教諭等資質向上研修Ⅱ(小・中)　　　　　　　　　　令和 ６年 ９月 １１日

**第２回　選択型研修　受講報告書**

点線より左側：①～④から選択した番号を記入する。（P5参照）

右側：①を選択した場合は、受講した講座名を記入する。

②③を選択した場合は、実施学校名や学年等を記入する。

④を選択した場合は、受講した二つの動画教材名を記入する。

２又は３を記入する。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 香川県教育センター所長　殿 | | | | 校名 | | 〇〇〇〇〇〇学校  年度当初に送付された研修の開催についての通知で周知した受講者番号を記入する。 | | | |
| 校長名 | | 〇〇　〇〇 | | | |
| 受講者名 | | ○○□□ | 受講者番号 | ○○ |
| 第２回研修 | 日　時 | | 令和　６年　９月　５日（木）１３：３０～１６：３０ | | | | | | |
| 選択  番号 | 講座名等 | ④ | | ・新学習指導要領に対応した学習評価（小学校 国語科）新学習指導要領編 No37  ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して 校内研修シリーズ No94 | | | | |
| 研修の概要 | | 「新学習指導要領に対応した学習評価」は・・・・・。  「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」は・・・・。 | | | | | | |
| 受講後の感想等  ２又は３を記入する。 | | 県教育センターへ提出する前に管理職の確認を得ること。  ④を選択した場合は、受講した二つの動画教材について感想等を記述する。 | | | | | | |

送 付 先　　香川県教育センター

**〒７６１－８０３１　高松市郷東町５８７－１**

　　各研修終了後、２週間以内に逓送又は郵送してください。

（様式３－２）

中堅教諭等資質向上研修Ⅱ(小・中)　　　　　　　　　　令和 年 月 日

**オンライン研修「学校組織マネジメント」レポート**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 香川県教育センター所長　殿 | | 校名 |  | | |
| 校長名 |  | | |
| 受講者名 |  | 受講者番号 |  |
| 受　講　日 | 令和　　　年　　　月　　　日（　　） | | | | |
| 研修の概要 |  | | | | |
| 受講後の感想等 |  | | | | |

※県教育センターへ提出する前に管理職の確認を得る。

※第７回研修の際に１部持参するか、それまでに県教育センターへ逓送又は郵送する。

(様式例４―１)　**中堅教諭等資質向上研修Ⅱ(小・中)　県教育センター等における研修受講記録**

校名（　　　　　　　　　　　　学校）受講者名(　　　　　　　　　　　　　)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研修日時 | | 月　　日(　　)　　　　：　　～　　： | 研修会場 |  |
| 研修内容 |  | | | |
| 研修成果及び感想 |  | | | |
| 研修日時 | | 月　　日(　　)　　　　：　　～　　： | 研修会場 |  |
| 研修内容 |  | | | |
| 研修成果及び感想 |  | | | |

※学校独自の様式も可

(様式例４―２)　**中堅教諭等資質向上研修Ⅱ(小・中)　校内等における研修受講記録**

校名（　　　　　　　　　　　　学校）受講者名(　　　　　　　　　　　　　)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 研修日時 | 研修内容 | 研修成果及び感想（指導・助言の内容を含む） |
| 月　日  (　　)  ：  ～～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～～  ： |  |  |
| 月　日  (　　)  ：  ～～  ： |  |  |

※学校独自の様式も可

※校内研究授業については、討議会での意見や指導・助言の内容も記録すること。

（様式５－１）　**令和６年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ実施報告書（本人用）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | 職名 |  | | ﾌﾘｶﾞﾅ |  | |
| 受講者名 |  | |
|  | | | | | | | | |
| 観　点 | | 育成指標 | | | | | | 報告及び自己評価 |
| **A**  **素**養・資質 | **使命感・責任感** | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | |  |
| **コミュニケーション** | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | |
| **自己研鑽** | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | |  |
| **学習指導** | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 | | | | | |
| **生徒指導** | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | |  |
| **参画・運営** | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | |
| **危機管理** | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | |  |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | |  |
| 成果と課題 |  | | | | | | | |
|  | | | | | 報告年月日 | | | 令和　　年　　月　　日 |

（様式５－２）　**令和６年度　中堅教諭等資質向上研修Ⅱ実施報告書（校長用）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 校　　名 | 学校 | | | | 職名 | |  | | | ﾌﾘｶﾞﾅ | |  |
| 受講者名 | |  |
|  | | | | | | | | | | | | |
| 観　点 | | | 育　成　指　標 | | | | | | | | | |
| A  素養・資質 | **使命感・責任感** | | ミドルリーダーとしての使命感、責任感と高い倫理観に基づき、法規の遵守や綱紀の保持などを率先して実践する。 | | | | | | | | | |
| **コミュニケーション** | | 教育者として自覚を持った発言や行動ができ、円滑なコミュニケーション力や豊かな人間性を身に付ける。 | | | | | | | | | |
| **自己研鑽** | | 自己の教育実践を振り返り、課題解決のために教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。 | | | | | | | | | |
| B  知識・技能 | **子ども理解** | | 子どもの発達の段階や成長の背景を理解し、子どもとの関係を深めるとともに、配慮を必要とする子どもへの対応など、個に応じた適切な理解ができる。 | | | | | | | | | |
| **学習指導** | | 学習指導に関する専門的な知識や技能を高め、他教員の範となるような授業づくりをするとともに、適切な学習評価を実施し、授業改善につなげることができる。 | | | | | | | | | |
| **生徒指導** | | 子どもの自己存在感を高め、成長を促すための適切な支援を行うとともに、共感的な人間関係を育成し、学校全体の教育活動の活性化につながる集団づくりができる。 | | | | | | | | | |
| C  連携・協働 | **学校づくり** | | 学校の教育目標の達成に向けて、「チーム学校」の推進役として積極的にかかわり、特色ある学校づくりに取り組む。 | | | | | | | | | |
| **参画・運営** | | 保護者や地域との連携に積極的にかかわるとともに、他の関係機関等との連携を強化し、協働において中心的な役割を果たす。 | | | | | | | | | |
| **危機管理** | | 学校全体で取り組める多様なリスクやトラブルに対する未然防止策や対応策を提案し、安全で安心な学校づくりを推進する。 | | | | | | | | | |
| **特別な配慮や支援を**  **必要とする**  **子どもへの対応** | | | 特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性等を理解し、学習上・生活上の支援の工夫を適切に行うとともに、関係教職員や保護者と連携しながら組織的に対応することができる。 | | | | | | | | | |
| **ICTや情報・教育**  **データの利活用** | | | ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、情報・教育データを適切に活用することができる。 | | | | | | | | | |
| 総合所見 |  | | | | | | | | | | | |
| 報告  年月日 | | 令和　　年　　月　　日 | | 報告者 | | 職名 | | 校長 | 氏名 | |  | |